



ひめゆり平和記念資料館

# 資料館だより



第51号  
2013.5.31

## 目次

- 「館外講話事業」への講師派遣事業終了のお知らせ・・・1
- 資料館トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2  
2012年度企画展の会期延長のお知らせ／第19回日本平和博覧会会議に出席／証言員一人ひとりのイラスト制作／「長崎平和を歌う合唱団」との交流会／仲宗根政善先生を語る会／平和研究所設立のためのヒアリング調査実施／「飯上げの追体験」が行われる／アニメ「ひめゆり」インターネット公開と一般公開イベントのお知らせ
- 2013(平成25)年度のイベント・事業・・・・・・・・・・ 8
- コラム 相思樹・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 統計に見る2012年度・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 仲宗根政善日記抄(47)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 本棚(仲程昌徳)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 声・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 資料館の動き(2012年度)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 資料館ガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

## 「館外講話事業」への講師派遣事業終了のお知らせ

日ごろより、当財団の事業にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。

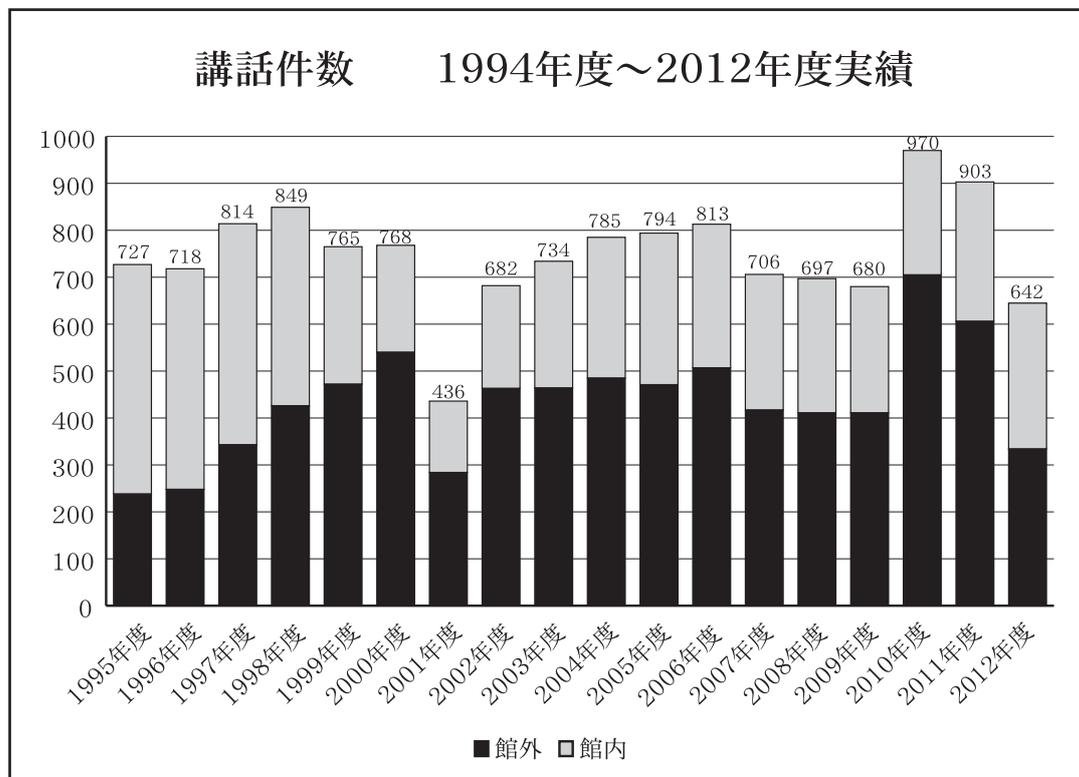
ひめゆり平和祈念資料館は、今年の6月23日で開館24周年を迎えます。開館以来、多くのみなさまがご来館くださり、今年1月までに、1,900万人余の入館者をお迎えすることができました。このように資料館の運営を続けて来ることができたのも、みな様方のご支援の賜と深く感謝しております。

開館当初60代の前半だったひめゆり学徒の「証言員」も、現在84歳から88歳の年齢を迎えており、当初27名いたメンバーは、10名に減っています。これまで「証言員」は資料館内の証言活動にとどまらず、修学旅行団体などの「館外講話」の要望にも対応してきました。その数は年間1,000回以上にも上り、1日3回もの講話を掛け持ちし、講話を終えると帰宅が夜10時ごろになるということも少なくありませんでした。

このたび当財団では、80代後半を迎えた「証言員」が今後もこのような活動を続けていく事は体力面や安全面で無理があると考え、「館外講話事業」の講師派遣を今年の9月で終了することにしました。

一方で、修学旅行関係者のみなさまが、戦争の実相と平和の尊さを学ぶ上で、「証言員」による戦争体験講話を重要なものとして考えていらっしゃることは、大切にしていかなければならないと受け止めています。今後は、ひめゆり平和祈念資料館内での講話を可能なかぎり増やせるようにしていきたいと考えております。

趣旨をご理解いただき、どうぞ今後ともみな様方の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



グラフ注1：1994年度以前も館外講話は行っているが、正確な数字を把握していないため、1995年度以降をグラフ化した。

グラフ注2：館外講話の件数は、財団事務局によって受け付けた数であり、それ以外に個人対応の講話を含めると年間の講話数は1000件以上にのぼっている。

# 資料館トピックス

## ◆ 2012 年度企画展の会期延長のお知らせ

当館では、2012年11月より2012年度企画展「生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—」を開催しております。連日、多くの参観者のみなさまが、パネルや展示物、上映映像を真剣にご覧になっている姿が見受けられます。

本企画展は3月31日をもって終了の予定でしたが、多くのみなさまから、会期を延長してほしいという要望が寄せられたため、開催期間の延長が決定いたしました。この機会に多くのみなさまのご来場をお待ちしております。

会場に設置したアンケートのなかには、思いの込もった感想が多数寄せられており、生存者の収容後を知ることで、より一層戦争の悲惨さを知ることにつながっていることを実感しています。そのいくつかを下記に紹介いたします。

### 企画展アンケートに寄せられた感想より

#### ① 展 示

- ・これまでひめゆり学徒として生き残った方々のその後を知る機会があまりなかった。戦時中だけでなく、後のこともあわせて知った方が戦争の実情が良く理解できました。生き残られた方々、亡くなってしまわれた方々、どちらもつらい。戦争は絶対に起こしたくありません。

(2012/11/14 大阪府 32歳 女性)

- ・生き残った者にとっての苦難は、それ以降から始まるという視点は当然のようで盲点でもあった。

(2012/11/25 宮城県 51歳 男性)

- ・生き残った方々のその後の生活の様子や証言を聞くことによって、戦争というものはある日突然始まって、突然終わるものではなく、終わった後も個人個人の中ではずっと終わらないものなのだということが想像できました。

(2012/12/31 宮城県 32歳 女性)

- ・是非常設展にして下さい。すばらしい展示内容です。

(2013/02/09 熊本県 48歳 男性)

- ・生き残った人達の辛い体験や別れを考えると本当に戦争は起きてはいけない、起こしてはいけないものだと感じました。気持ちを考えると胸がつまる思いでいっぱいになり涙があふれてきました。どうか亡くなった方々が安らかに眠れますように…願いを込めて…

(2013/01/31 埼玉県 33歳 女性)

#### ② 映 像

- ・自分だけ生きてよかったのか、とか、夢の話をきいて胸が痛くなった。

(2013/02/07 埼玉県 17歳 女性)

- ・生きのこったからこそその苦難や苦痛な気持ちをきくのは心苦しかったけど、それが戦争でもう二度とあってはならないことだと痛感しました。

(2013/02/07 埼玉県 17歳 女性)



企画展会場の様子



企画展上映映像を熱心に視聴する参観者も多く見られた

## ◆第19回日本平和博物館会議に出席

2012年11月8日・9日の2日間、広島平和記念資料館で開催された「第19回日本平和博物館会議」に、当館から館長島袋淑子ほか職員2名が出席しました。本会議は、年に1回国内の平和博物館が集まり、館運営や館同士の協力・連携について話し合う会議です。

今会議の協議事項は、①10年後の日本平和博物館会議のあり方について、②定例会にオブザーバー参加を認めることについて、③加盟館の入館者状況の情報の共有化についての3つでした。

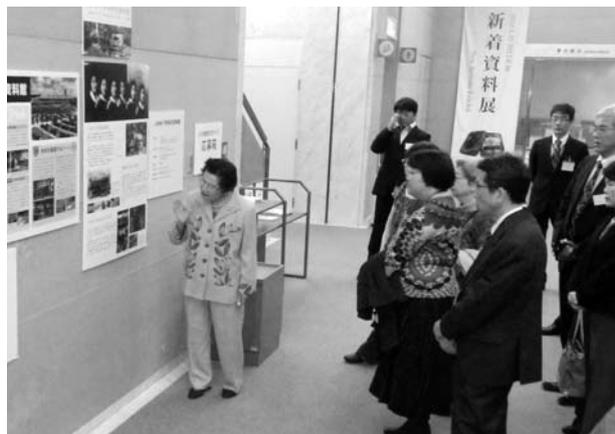
①については、各館の性格や理念等が違うため共同巡回展や共同企画展はできないが、必要に応じて各館のデータを利用したり資料を借りたりすることによって協力体制を築いていきたい、②については、その都度必要に応じて加盟館からの意見も聴取しながら決定する、③についてはさっそく本年度から始めたい、ということになりました。

今回は開催館の広島平和記念資料館の企画により、加盟館の理念や主な展示内容をまとめたパネル展も行われ、各館の館長や学芸員が会議出席者に解説しました。

2日目は広島市内の被爆跡を歩くフィールドワークも行われ、広島の被爆の状況への認識を深めました。



日本平和博物館会議の様子



企画展「平和博物館を知ろう」で解説する島袋淑子館長

## ◆証言員一人ひとりのイラスト制作

当館では、ひめゆり学徒隊の戦争体験を子どもたちに伝えることを目的に、2011年に『絵本 ひめゆり』、2012年にアニメ「ひめゆり」を制作しました。そこでは「主人公」を一人に絞らず、ひめゆり学徒隊に共通する体験を中心に、内容を構成しています。言葉だけではわかりにくかった場面も理解しやすくなったと、ご好評をいただきました。

今回、その経験をいかして、ひめゆり学徒隊に共通する体験にこだわらず、証言員一人ひとりの体験を、できるだけ具体的にイラストとして表現し、記録に残すことになりました。現在、それぞれの証言員が特に印象に残っている場面を数場面ずつ選び、学芸員による聞き取りをもとに、イラストの担当作家が下絵を描き、それを証言員本人に確認し、必要な部分について修正を加えるという手順で、制作を進めています。

イラストを制作するにあたって問題になったのは、ひめゆり学徒の悲惨な死の状況をどこまでイラストで表現するのかということでした。しかし、いろいろと話し合いを重ねた結果、自分たちがいなくなっても、次の世代の人たちに、戦争とはどういうものかを理解してもらうために、苦しくてもきちんとイラストとして記録に残しておこうということになりました。

イラストは、三田圭介氏（『絵本 ひめゆり』原画作者）、海津研氏（アニメ「ひめゆり」原画作者）の二人をお願いしています。

## ◆「長崎平和を歌う合唱団」との交流会

2013年2月5日に、「長崎平和を歌う合唱団」（メンバーに被爆者を含む）と、当館証言員（ひめゆり学徒隊生存者）との交流会を行いました。

交流会では、被爆者を代表して江原篤子さんと中川美苗さんが、当館の証言員を代表して大見祥子がそれぞれの戦争体験を語りました。

江原さんからは、家が爆風で全壊し、4人の弟妹も亡くなり、自分自身も体調を崩し死の寸前までいったこと、中川さんからは、学徒動員先で多くの学友を失い、気付いたときには何千枚ものガラスや鉄筋に埋まっていたこと、顔がただれてどこが顔かもわからない状態になった被爆した子どもを見た体験などを話して頂きました。大見証言員からは、沖縄戦で負傷兵の看護に当たったが、撤退時や解散後に自らも負傷し、喜屋武海岸に追いつめられて自決寸前で収容されたことなどが話されました。

その後、合唱曲「礎に思いを重ねて」が披露され、思いのこもった歌声に涙を浮かべる証言員もいました。この曲は、昨年沖縄全戦没者追悼式で朗読された沖縄県立首里高校の生徒の詩に、同合唱団創立者の寺井一通氏が感銘を受け、合唱曲に仕上げたものです。今回は、この曲の披露を兼ねての訪沖となりました。

交流会は、戦争を体験した者同士、「二度と戦争をしてはいけない」という思いや平和のために頑張っていこうという思いを確認し合う場となりました。



「長崎平和を歌う合唱団」の素晴らしい歌声が響いた



被爆体験に聴き入る証言員

## ◆仲宗根政善先生を語る会

2013年3月11日、今帰仁村歴史文化センターにおいて、「仲宗根政善先生を語る会」が開催されました。ひめゆり学徒隊の引率教師であり当館初代館長の仲宗根政善先生は、今帰仁村出身で、沖縄の言語学研究の第一人者でもあります。仲宗根政善先生のご遺族から、故郷である今帰仁村へ仲宗根先生の蔵書が寄贈され「仲宗根政善先生寄贈本・資料展」が開催されているのを機に、見学を兼ねて実施する運びとなりました。

最初に、文化センター館長仲原弘哲氏より「仲宗根政善先生が見た今帰仁」との題で、仲宗根先生の故郷の風景を写真等で紹介されながらお話いただきました。「ただ言葉の形骸を集めるだけでは申し訳ない」

と言葉の根底、背景にあるものへの思いを馳せることの重要性を説かれた仲宗根先生の姿勢は、学問研究の在り方を問いかける言葉として突きつけられているのではないかと話されました。

その後、当館館長島袋淑子をはじめ、ひめゆり学徒生存者から、仲宗根先生の思い出が語られました。「万葉集の授業が素晴らしく、国語教員の免許を取得するきっかけとなった」「顔を紅潮させて、那覇の崇元寺の松並木の素晴らしさを語っていたが、当時の自分にはわからなかった」といった戦前の学校時代のエピソードや、「先生が、栓を抜くな！と叫ばなければ、私たち12名は生きていなかった」「早まったことはするんじゃないぞ、という先生の一言が自決を止めた」などの戦争中の体験が紹介されました。

戦後、生徒の消息を得ることに力を注いでいたこと、戦争体験を記録するように生存者へ再三呼びかけていたことなど、亡くなった生徒の慰霊と戦争体験を後世に伝えることに心を砕いてきた仲宗根先生の姿も、多くの参加者から聞かれました。

言語や戦争体験を後世に残すべきだという仲宗根先生の真摯な姿が浮かび上がってきた、有意義な座談会となりました。



仲原弘哲館長によるレクチャー



仲宗根先生の思い出を語る大見祥子証言員

## ◆平和研究所設立のためのヒアリング調査実施

ひめゆり平和研究所の構想づくりの一環として、広島市立大学広島平和研究所、沖縄県平和祈念資料館へのヒアリング調査を実施しました。

### \* 広島市立大学広島平和研究所

2012年11月7日、当館館長島袋淑子ほか職員2名により調査を実施しました。

対応していただいた副所長の水本和実氏と次長の坂田裕夫氏からは「テーマについて、ひめゆりに特化するのか、それともそれ以外にも広げるのか」「活動としては、研究し報告書だけを出すのか。それとも講演やシンポジウム、講座など市民への普及活動も考えていくのか」「研究者については、県内在住者だけかそれとも県外・国外在住者も対象とするのか。アカデミックの人のみかメディアの人も入れるのか。若手研究者をどう集めるのか」など、広範囲にわたってご助言いただき、多くの示唆を得ました。

### \* 沖縄県平和祈念資料館

2013年1月23日、当財団新規事業準備室長宮城喜久子と職員1名により調査を実施しました。

今回の調査の目的は、「次世代の継承にどのように取り組んでいるのか」と「情報ライブラリーの蔵書状況や利用状況はどうなっているのか」等に関する聞き取りでした。同館主幹の島袋成良氏、沖縄県平和祈念資料館友の会の安田国重氏、大城藤六氏、沖縄県平和祈念財団の平田守氏の4名に対応していただきました。

「学芸的職員は戦争体験者ではないので、その力不足を沖縄戦の映像やパワーポイント等で補って

る」「小学校は低学年と高学年の2つに分けて、低学年には絵本の読み聞かせ+話、高学年には講話をするようにしている」などのお話があり、次世代が担う講話のあり方を考えるうえで多くの示唆をいただきました。



広島市立大学広島平和研究所でのヒアリングの様子



対応して下さった副所長水本氏(左より2番目)と次長坂田氏(右端)

## ◆「飯上げの追体験」が行われる

2013年2月27日、広島経済大学岡本貞雄ゼミと南風原文化センターの共催による「飯上げの追体験」が行われ、当時の状況の「証言者」として当館館長島袋淑子が協力しました。「飯上げの追体験」とは、沖縄戦中、弾が飛び交う中をひめゆり学徒らが炊事場から各勤務壕まで飯を運んだ体験を追体験しようというものなのです。

追体験に先立ち、当館館長の島袋淑子から飯上げ樽の持ち方や運び方、弾が近くに落ちてきた時の様子などの説明を受けました。その後約70名の学生らが飯10キロを含む14キロの重量の一斗樽を2人1組になって交替で担ぎ上げ、同センターから沖縄陸軍病院第二外科20号壕跡までの道のり300メートルを往復しました。

当日は雨が降っていたため道がぬかるみ、当時の雨の日の状況が再現され、転んでしまう人もいました。参加した学生たちからは「ご飯は落とせないなので、とてもプレッシャーがあった。十代のひめゆり学徒がこんなことをしていたなんて信じられない」「坂道の上下が大変だった。戦争に備えて十七里行軍などで学徒たちを鍛えておく必要性があったことがよくわかった」などの感想が述べられました。

終了後、樽に入った飯でつくったカレーライスと同ゼミが広島から持ってきた「江波団子」が参加者に振る舞われました。また「飯上げの証言者」として、元白梅学徒隊の中山きくさんや元なごらん学徒隊の大城信子さんの飯上げ体験の証言もありました。



雨のなかの飯上げ追体験



飯上げの際の樽の持ち方などのレクチャーの様子

## ◆アニメ「ひめゆり」インターネット公開と一般公開イベントのお知らせ

昨年6月に完成したアニメ「ひめゆり」は、夏休みや冬休みなどに当館の多目的ホールにて上映を行って参りましたが、ご覧になった方からは「子供にもわかりやすい」「戦争の悲惨さが伝わった」「ぜひ多くの人に見てほしい」などの感想が寄せられています。

アニメ「ひめゆり」をより多くの人にご覧頂き、ひめゆり学徒隊について伝えていきたいという趣旨から、夏頃より、インターネットでの公開を行う予定です。世界へ向けての発信を意識し、英字幕も設けました。多くの方がご覧下さり、戦争や平和について考えるきっかけにいただければと思います。

また、7月24日に「アニメひめゆり一般公開イベント」を沖縄県立博物館・美術館講堂にて行います。入場希望の方は整理券をお申し込み下さい。(お問い合わせは、ひめゆり平和祈念資料館 098-997-2100 までお願いいたします)



## 2013(平成25)年度のイベント・事業

当財団では、今年度、下記のイベント・事業を計画しています。

### ○イベント

- \*アニメ「ひめゆり」&証言ビデオ「平和への祈り」上映会（夏休みと春休みに予定）
- \*アニメ「ひめゆり」一般公開イベント（7月24日）
- \*夏休み元ひめゆり学徒の戦争体験講話（8月予定）
- \*教員向け講習会（証言員の講話＋資料館見学＋ワークショップ）（8月16日）
- \*第6回ひめゆりガイド講習会（夏予定）

### ○事業

- \*ひめゆりの塔の管理及び慰霊祭の举行（6月23日）
- \*証言員（ひめゆり学徒隊生存者）の戦争体験講話事業
- \*証言員一人ひとりのイラスト制作
- \*ひめゆり関連の戦跡壕の調査
- \*平和研究所等の視察・ヒアリング調査
- \*出版

『感想文集ひめゆり』第24号（2013年6月23日）・『年報』第24号

「資料館だより」51号（2013年5月31日）・52号（2013年11月30日）

## 相思樹



### 「生き残ったひめゆり学徒たち」

普天間朝佳

現在、当館では、「生き残ったひめゆり学徒たち―収容所から帰郷へ―」展を開催中です。

この企画展は昨年六月に発刊された『資料集5 生き残ったひめゆり学徒たち』を基に構成されていますが、当初この「生き残ったひめゆり学徒たち」というタイトルについては、ひめゆり学徒隊の生存者である「証言員」から反対の声が挙がりました。「生き残った」という表現からは、生き残ってよかったというニュアンスが感じられ、亡くなった友だちやご遺族に申し訳ないというのです。

それに対し、戦後生まれの職員から「自分たちの世代にとって、そのような思いも含め、みなさんが戦後どのような思いで生きてきたのかを知ることが、戦争体験とともにとっても重要なことであると思う。このタイトルはそのことを表現していると思う」という意見が述べられ、結果的には、このタイトルでいこうということになりました。

実は、同じようなやりとりは、約十年前に開催した二〇〇三年度企画展「ひめゆりの戦後」の時にもあり、当初、彼女たちは、そのような内容の企画展を開催すること自体に難色を示していました。これまで彼女たちは、戦争の悲惨さとともに、無念の思いで亡くなった友だちのことをぜひ多くの人に知ってもらいたいという思いから、証言活動を続けてきました。生き残った自分たちにスポットライトが当たることは不本意だったのです。

二年前に日本中に衝撃を与えた三・一一大震災でも、「なぜ、子どもではなく、妻ではなく、自分が生き残ったのか」と苦悩する生存者の声が伝えられています。戦争であれ震災であれ、生き残るということは喜びだけではなく重い体験でもある―そのことを改めて痛感した企画展となりました。

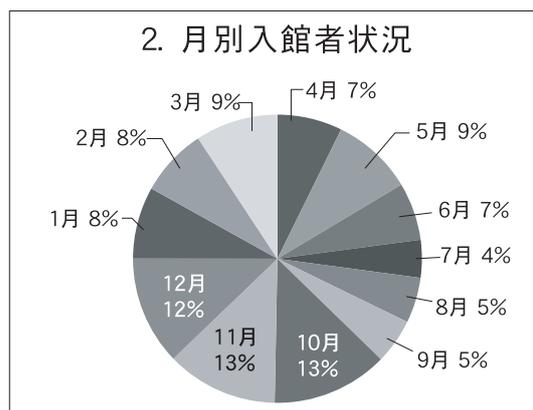
# 統計に見る2012年度

## 1. 総入館者状況(入館料免除を除く)

- ・ 昨年入館者は 662,956 人 (前年の 673,799 人より 10,843 人減少)。1 か月の平均入館者は 55,246 人、1 日平均は 1,836 人 (慰霊の日と台風による休館 3 日間を除く 361 日)。  
→開館以来 24 年間で 22 番目の入館者数。
- ・ 開館以来 24 年間の累計は 19,141,122 人で、年平均入館者数は 797,546 人、1 日平均は 2,218 人 (ただし、1989 年度の開館期間は 9 か月間)
- ・ うち外国人は 4,342 人。

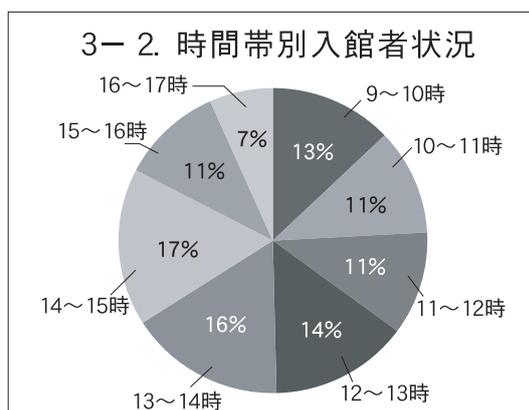
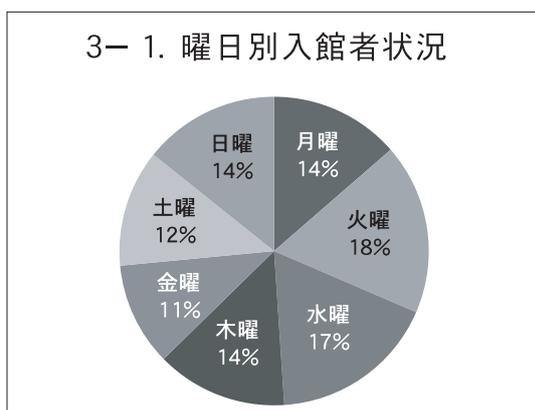
## 2. 月別入館者状況

- ・ 昨年 1 年間で入館者が多かった時期は修学旅行シーズンの 10 月～12 月の 3 か月間。3 か月間の合計は 249,889 人で、総入館者数の 38% (小数点以下を四捨五入。以下同じ)。
- ・ 入館者数が少ない時期は 7～9 月。3 か月間の合計は 95,770 人で、総入館者数の 14%。



## 3-1. 曜日別入館者状況 / 3-2. 時間帯別入館者状況

- ・ 曜日別では、週半ばの火・水に集中している。  
曜日別：月 14%、火 18%、水 17%、木 14%、金 11%、土 12%、日 14%。
- ・ 時間帯では、12 時台から 15 時台までの午後の早い時間帯が少し多い。

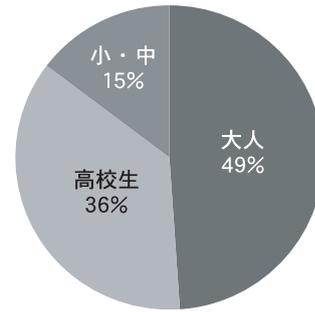


## 4. 類別入館者数

【総数】入館者の割合は、大人が49%、高校生36%（そのうち97%が団体で入館）、小・中学生15%（そのうち73%が団体で入館）。24年間の平均では、大人が66%、高校生23%（そのうち95%が団体で入館）、小・中学生11%（そのうち63%が団体で入館）。

【団体】団体の割合では、特に高校生の割合が65%と高く、次いで小・中学生20%、大人15%となっている。

## 4. 類別入館者状況（個人・団体含む）



## 5. 学校団体の入館状況

・昨年度、修学旅行で来館した学校団体は、2,251校、306,813人（前年の2,413校、342,054人に比べ-162校、-35,241人）。内訳は、小学校が77校で3%、中学校が737校で33%、高校が1,437校で64%。

### 【地域別】

- ・全体では、関東32%、近畿15%が多い。
- ・小学校 沖縄53%、九州23%、関東12%の順に多い（前年は沖縄54%、九州22%、関東11%）。
- ・中学校 近畿33%、中国19%、九州15%の順に多い（前年は近畿37%、中国18%、九州15%）。
- ・高校 関東48%、東海17%、信越7%の順に多い（前年は関東50%、東海15%、信越8%）。

### 【都道府県別】

- ・小学校 沖縄39校、鹿児島17校、東京4校の順に多い。
- ・中学校 大阪80校、岡山78校、兵庫69校、熊本47校の順に多い。
- ・高校 東京192校、神奈川125校、千葉93校、埼玉88校の順に多い。
- ・沖縄の中学・高校の全体に占める割合は、それぞれ中学4%、高校0.6%

### 【月別】

- ・10月13%、11月12%、12月12%、3月9%の順に多く、4か月間で全体の46%を占める。
- ・小学校 6月25%、5月16%、4月13%の順に多い。
- ・中学校 5月45%、6月16%、4月13%の順に多い。
- ・高校 10月25%、11月21%、12月20%の順に多く、3か月間で全体の66%を占める。

## 6. 入館料免除

入館料免除総数 38,306人

- ・ 団体（県内学校団体・特別支援学校・一般団体含む） 181団体／10,445人
- ・ 学校団体引率者 20,604人
- ・ 修学旅行下見 657校／1,858人
- ・ 個人免除者（身障者手帳等提示の方） 2,790人
- ・ 慰霊の日（6月23日） 2,609人

※沖縄県内学校団体は、入館料免除となるため、総入館者数には含まれない。ただし、学校団体の総数及び人数には含まれる。

## 仲宗根政善日記抄(47)

〔1980年〕三月十七日

沖縄の悲劇を再販するので、三十三年忌に想思樹会〔注1〕員たちが集めた先生方やお友達の写真を挿入することにした。ところが、先生方の写真の中、石垣実俊君のがぬけている。何とか、入れたいと宮良ルリさんに電話で依頼したがまだ何ともない。

今朝、電話したら、定歳商店に連絡してあるが、まだとどきませんかとの返事であった。八重山の電話帳をくって、定歳商店の電話番号をさがして、電話をしてみた。弟さんの経営する商店だと聞いていたので、男の声の聞えてくるのを待っていた。女性の方の声が聞えたので、てっきり弟さんの奥さんだと思い、写真のことを依頼した。実はもと一高女にいた職員で、戦争中、実俊君と行動をともにした者ですという、私の主人ですという。女性の声はあかるかったけれども、胸がつまった。

実俊君は、最初第二十四号壕にいっしょにいた。南風原国民学校の破壊された資材をとり、夜中に生徒を引率して出かけて行って、それを持ち運んで、ぬかるむ壕の中に敷きつめて休めるようにしてくれた。年も若く、元気者であったし、何かと立働いて、生徒の世話をしていた。

ある爆撃もない静かな日であった。何げなしに鉛筆でノートに「高」という字を書いていると、私の手から鉛筆をとって、その書き方を教えてくれた。「高」の字を書いたたびに、いまでも親切に字の書き方を教えてくれたことを思い出す。

実俊君は、徳田安信氏といっしょに一高女生の一部を引率して、識名分室に行った。そこでガス弾を投下されて、徳田氏とともに負傷した。徳田氏は、一日橋分室で最期をとげた。南風原陸軍病院移動の日、石垣君は、担架で、南風原に運ばれた。病院は重傷患者を壕に残して、独歩患者ばかりを引きつれて移動することになっていた。石垣君を救出する方法もなく、ついに重傷患者とともに壕に残したのである。壕に残した渡嘉敷良子や狩俣キヨ子のことを思うたびにいつも、石垣君のこと

が浮んで来る。

電話を通じて、はじめて実俊君の奥さんの声を聞いた。もう三十四年もたっている。その後、苦難を凌いで生きぬいて来られたであろう。

戦後、八重山に、いくたびも訪ねて行ったのに、一度も、奥さんを訪ねたこともなかった。どうおわびをしてよいかわからなかった。写真をお供し下さいと申し上げるのはばかられた。書物に写真をのせたからといって、何の慰みにもならなからう。しかし、一枚だけぬかすのは、何としても申し訳ない気がする。

喜屋武断崖に追いつめられて、死がせまったとき、誰にも知られず岩かげに朽ちて行くのかと、たえられない孤独感にかられた。死んで行った者は、何か自分が生きていたあかしを残しておきたいにちがいない。いっぺんの写真でも、あるいは供養にもなろうかと思う。

遺族たちにとっては、涙の種になるかもしれぬ。ある遺族の方は、写真をかりに行ったら、いまさら何だと、怒っておられたともいう。その心情はよくわかる。いっぺんの写真が慰めになるのか。既に死んで行った。よびかえしようもない。その深い悲しみからすると、写真は、慰めにならないどころか却って、心を乱するものともなる。親たちの、いまさらということばが胸につきささるほどいたい。

三月十八日

石垣実俊君の兄〔注2〕、実勇氏から、速達便で、実俊君の写真をおくってくれてあった。実俊君の荷物は一切沖縄に持って行っており、そのまま戦禍にあつて、何一つ残っておらず、写真も残っていない。四方八方さがし回ってやっと師範学校同級生の持っていた、生徒時代の写真を一枚みつけたととどけてあった。丸坊主でいかにも元気そうな青年であった。書の才能に恵まれて、書道に専念して、一高女でも、書道の先生をしていた。弟の実勇氏も有名な書家である。実俊君をしのぶものを

遺族も持ち合わせてはいないのである。南風原陸軍病院の壕の中で、重傷患者とともに空しくはてて、忘れられようとしている。お子さんがいたかどうかよく分からない。遺族の方々の記憶が次第にうすれて行くのではないだろうか。この写真は、遺族にとっても唯一貴重なものである。書物にのせて、親戚やお友達にもしるでもらうことは、やはりいささかの供養にもなろう。

さっそく複写して、ご遺族と角川に送ることにした。

三月二十二日

朝比奈時子さんから、ひめゆりの塔の記にのせる写真のちぐはぐがあると、数枚おくりかえして来た。一昨日の晩、その写真を懐にして、練兵橋を通り、ひめゆり同窓会館へ行った。橋から大道小学校の塀にそって歩いた。この道を、〔昭和〕二十年三月二十四日、生徒を引率して、南風原陸軍病院へと向かったのがあった。なくなった生徒たちの写真を懐にして歩いていると、防空頭巾をかぶり、モンペをはいて、黙々として歩いて行く隊列が、今、自分のそばを過ぎて行くように感じられた。

艦砲のはじまった日、識名高射砲陣地に生徒と避難して、くれかかったので、識名の坂を、夕雲におおわれた慶良間の島影をはるかに望めながらおりて来た。二十三日からはじまった空襲は、ほとんどの飛行機は、十空襲のときとはちがって、慶良間の島へと飛んでいた。その機影が去って、死のような静けさにかえていたのである。私は付属国民学校の主事室へと靴のままはいて行った。二十三日が、卒業式の予定日で、生徒に渡すべき卒業証書や賞状をのせる黒い盆が、机の上にきちんと置かれたままであった。主事室の整頓をして、廊下を帰って行くと、山羊小屋の小山羊がしきりに夕餉をねだって鳴いていたが、解き放つてやるよゆうもなくして玄関を出た。一高女の塀にそうして、西岡部長の住宅に行く。途中、玉栄清良君に出逢った。彼の家族は、疎開する予定で、荷物はすで

に船に積んであったが、船を空襲で、爆破されて、とうとう途方にくれて、彼も家族の処置にとまどっていた。「私は生徒といっしょに南風原陸軍病院について行けませんで、まことに申訳ありません」といかにもすまなさそうにしていた。もとより彼は、付属訓導であり、引率の責任などはなかった。

夜のしじまにこの街道を歩いていると、生徒たちが、声をかけて通って行くような錯覚をおこす。

やがて、栄町の特飲街にはいって行った。三味線の音が流れて、酔いしれてさわぐ声が外まで聞える。このあたりは、寄宿舍の跡だったのである。くらがりに客びきの女が立っている。終戦直後のあの街娼のことが浮かんでぞっとした。

同窓会館にたどりつくくと、事務の新垣ハツエさんの主人が、鉄格子をあげて入口に待っておられた。もう十時も過ぎていて、付近の店はすべてしまつて、昼のそうぞうしさは、地にすいこまれたようにしんとしていた。階段に上って行く。はなやかなきもの展示会場の格子もおろされている。慰霊の間に入ると、新垣さんが、机の上に、なくなった生徒のアルバムを並べて待っていた。位牌の前にぬかずいて、アルバムの一枚一枚をくった。一人一人に向かい合っているような気がした。懐にして来た写真と照合し、幾人かはわかったが、どうしても見つからないのが、二、三あった。

アルバムをそのまま借りて帰ることにした。脇にかかえても重い。二百十一名が、今写真として、私のわきにかかえられている。肉親のつつみきれぬ悲しみがこの中ににじんでいるのである。

(続く)

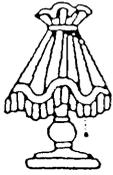
※読みやすさを考慮して、字句を補った箇所がある。

旧字体は新字体へ変更し、明らかな誤字は改めた。

※〔 〕は編集で補った。

※〔注1〕想思樹会：正しくは「相思樹会」。1945(昭和20)年当時の女師・一高女在学生の会のこと。

※〔注2〕石垣実俊君の兄：実勇氏の手紙によると、実勇氏は兄ではなく弟。



# 本 棚

元琉球大学教授 仲程昌徳

## 上江洲慶子『歌集 相思樹の譜』

仲宗根政善は「浄魂を抱いて」（『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記 三七 ひめゆりの塔』）の章で、自作の歌一首とともに金城文子の四首、千原繁子の四首、井伊文子の一首、大舛八重子の三首、さらに琉歌二首を引用した後で、ひめゆりの塔に「詣でる人々は歌をよみ、歌碑を建て、その数は七、八百首に及んだ」と書き留めていた。

ひめゆりの塔の周辺に、亡き学徒たちを悼んだ「歌碑」が建てられているのを見たのは仲宗根だけではない。島元巖は「旧三和村に住んでいた私は、洞窟の周囲に、参拝者たちが捧げた『鎮魂の歌』を数多く見ている。木や板に書きつけ、無造作に土に差し込んであった」といい、その後一九五一年に塔を参拝した時には洞窟の周囲の整備が始まっていて、「鎮魂の歌」の大部分がなくなっていたのに驚き、大急ぎで残っていた歌を手帳に書き写したとして短歌一〇首に琉歌二首を「六月二十二日という日に一乙女たちのみ霊よ、永久に安らげく一」（『一語一笑』）に収めていたし、与那城勇も「十字架納骨堂」（『琉球エデンの国物語』）の中で「洞窟のまわりの境内には、追悼のうたが参拝者たちに依って書き記され建てられてあった」と述べていた。

「ひめゆり」を悼む歌は、そのように、参拝者たちの歌に始まり、その後、次々と詠み継がれていくことになるが、その一つに、「相思樹の並木路ありき その花のいま咲くころと沖繩おもふ」の歌があった。作者は石塚一徳。平山良明の「石塚一徳小論」（『石塚一徳遺稿歌集 沖繩に歌ふ』）によれば、この歌は当時東京にいた石塚が、日比谷公園で、土地問題を訴える沖繩代表団の声を聞いて「たぎる思いと、姫百合部隊の悲しい思いを心に押さえて、それらを相思樹の花に託し」歌った一首で、一九五六年七月二十七日の朝日歌壇に掲載されたものであるという。

石塚の一首は、彼が、女師・一高女生の通った学園をよく知っていたことを物語っていた。戦前の学園を知る人は、女師・一高女といえ、すぐに「相思樹」を思い浮かべたに違いないからである。「相思樹は、大正のはじめ、大道の新校舎が出来て間もない頃、大通りから校門へ通う道の両側に並木として植えられていた。年月を経てかなりの大木に育った

双方の枝は、頭上高く重なりあってアーチ型のトンネルをつくり、朝夕くぐりぬける生徒たちの制服に木漏れ日を映していた。それは、新入生の登場と卒業生の退場の花道でもあった」（『ひめゆり一女師・一高女沿革誌』）とあるように、相思樹は、まさに学園を象徴するものであったからである。

その相思樹並木を「制服に木漏れ日を映して」歩いた生徒たちが「ひめゆり学徒隊」として従軍、多くの犠牲者を出したことで、塔の回りには彼女らを悼む歌が奉納され、そして石塚のような歌が詠まれていくが、勿論、彼等だけが「ひめゆり」に心を寄せた歌を詠んでいたのではない。やがて、学友たちによっても詠まれていく。

相思樹の黄金の花の耀きに学友と語りし路思ふ  
年ごとに相思樹の花咲きつげど戦に逝きし友は還らず  
ひめゆりの学友を顕たしめ若夏を黄金に匂ふ相思樹の花

上江洲慶子の歌集『相思樹の譜』に納められているものである。

「相思樹」は、在りし日の学園を思い出させたばかりでなく、戦争で亡くなった学友たちをまざまざと思い出させるものでもあった。そして、次のような一首。

「いつの日か再び逢はむ」奮き日に友と唄ひし「相思樹の歌」

絶唱とも言うべきものであるが、それらの歌は「戦争に学友逝かして半世紀短歌詠みつぐは心痛むも」という思いのなかで生まれてきたものであった。大岡信は、上江洲のこの歌を、一九九九年一月二十五日の「折々のうた」欄でとりあげていた。そして『新折々のうた5』（岩波新書）の「あとがき」で、上江洲の歌を含めて紹介された二七首は、合同歌集『黄金森』その他から取ったこと、「沖繩サミット会議」に先だって紹介したのは、サミットでは「論じられることなど金輪際ないであろうところに、沖繩の人々の重畳する無念の思いはあって、その一端がこの合同歌集にはつまっている」と感じたからであるという。

『相思樹の譜』には、かつて「花道」を歩いた学友たちを偲んで歌った歌が数多く収録されているが、そこから伝わってくるのは、まさしくこの「重畳する無念の思い」である。

# 声

## みなさんに背中を押され教員へ

愛知県 無記名

私は43歳になる男性で、昨年の夏に初めてここに訪れました。教員免許の取得と教員採用試験に向けた勉強を始めたばかりのころで、教員になる夢を描くとともに、この先の長い試練に耐えられるのか、目標は達成できるのだろうか大きな不安を抱えていました。しかし、ここを訪れ、ひめゆり学園が師範学校であった事を初めて知ると共に、教員になる夢をかなえることなく散ってしまった若い命たちについて深く考えさせられることとなりました。そして、必ず教員になって、みなさんがかなえられなかった夢を自分が実現させたいと考えるようになりました。私としては力強く背中を押されるものでした。その結果、地元の愛知県の公立高校の教員試験に合格し、教員免許の取得から採用試験の合格まで、最短の時間で通過することが出来ました。

「みなさんだったら何を生徒に伝えたいだろう」と考えることがあります。あの戦争は歴史の1ページにするにはまだ早すぎます。そこから学ぶべきことはたくさんあります。命の尊さも伝えます。もし、教材に沖縄戦の話が少しでも出てきたら生徒に考えさせたいと思います。なぜ、あなたたちが死ななくてはならなかったのか。その答えは見つからないかもしれません。でも、それこそが答えなのかもしれません。

教員となった今、不思議とみなさんが身近に感じられます。これからは、あの戦争で亡くなった多くの方の命が無駄にならないよう、使命をもって教職を全うしていきたいと思います。

### 資料館の動き(2012年度)

- 2012年5月7日 企画展上映用ドキュメンタリー作品制作のための撮影開始（生存者11人の撮影。9月5日に終了）
- 6月23日 アニメ「ひめゆり」完成。多目的ホールにて完成上映会開催
- 23日 『ひめゆり平和祈念資料館資料集5 生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—』発行
- 23・24日 日本平和学会シンポジウムに職員を派遣
- 7月9日 第5回平和研究会開催（講師：関東学院大学教授 林博史氏）
- 21日 第5回ひめゆりガイド講習会開催
- 8月1日～28日 証言員の活動記録の撮影（館内証言、多目的ホールでの講話）
- 1日～15日 夏休み戦争体験講話とアニメ「ひめゆり」上映会開催
- 17日 教員向け講習会開催
- 10月1日 第6回平和研究会開催（講師：琉球大学教授 喜納育江氏）
- 26・27日 第12回平和のための博物館市民ネットワーク全国交流会へ職員を派遣
- 28日 当財団理事長本村つる、沖縄県功労者として表彰される
- 11月1日 2012年度企画展「生き残ったひめゆり学徒たち—収容所から帰郷へ—」スタート
- 7日 日本平和博物館会議へ職員を派遣／広島市立大学広島平和研究所でのヒアリング調査実施（館長島袋ほか職員2名）
- 2013年1月23日 沖縄県平和祈念資料館でのヒアリング調査実施（室長宮城ほか職員1名）
- 2月5日 「長崎平和を歌う合唱団」と証言員との交流会開催
- 3月11日 今帰仁村歴史文化センターとの共催「仲宗根政善先生を語る会」開催

# 資料館ガイド

## ◆平和講話・証言ビデオ「平和への祈り」視聴ご案内

多目的ホールでは、元ひめゆり学徒の講話（約30～45分）や証言ビデオ（25分）を視聴することができます。※ご予約が必要です。

【講話】 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00

【ビデオ】 9:10 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00

※毎週月曜日・年末年始（12月30日、31日、1月1日～3日）・旧盆（旧暦7月13日～16日）は講話は休みで、ビデオ視聴のみ受け付けます。慰霊祭前後（6月21日～24日）は、ビデオ上映会を行うため、予約はできません。

- 最大収容人員：200人（席）
- 資料館へ入館していただく場合に限らせていただきます。
- ホールは講話・ビデオ以外の目的（セレモニー等）には利用できません。
- 予約時間に遅れた場合、予約状況によってキャンセルさせていただくこともございます。

## ◆VTR室のご利用について

下記についてビデオを視聴することができます。

- ◇「平和への祈り－ひめゆり学徒隊の証言」（25分）
- ◇「仲宗根政善－浄魂を抱いた生涯」（30分）
- ◇「ひめゆりの戦後」（33分）
- ◇「戦火に消えた21の学園」（26分）



多目的ホール

## ◆資料館ご利用案内

- ①入館受付 午前9時～午後5時（閉館は午後5時25分）
- ②休館日 年中無休
- ③入館料 大人¥300 高校生¥200 小・中学生¥100（団体20名以上 10%引き）
- ④交通

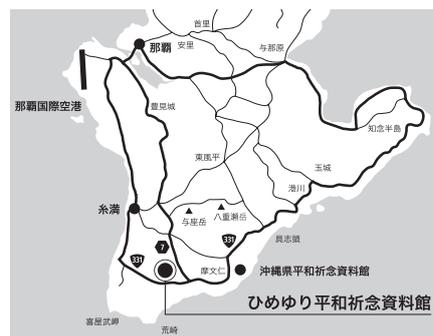
【バス】旭橋・那覇バスターミナルから[89]で約30分、

糸満バスターミナルで[82][107][108]に乗り換え約15分、  
ひめゆりの塔前下車

【モノレール・バス】モノレール那覇空港駅から赤嶺駅まで約4分、

赤嶺駅前（糸満・豊崎向け）バス停で[89]に乗車し、約20分。  
糸満バスターミナルで[82][107][108]に乗り換え、約15分、  
ひめゆりの塔前下車

【車】那覇空港より約30分



ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより 第51号

2013(平成25)年5月31日発行

編集・発行 公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館

資料館 ☎ 901-0344 沖縄県糸満市字伊原 671-1 ☎ 098-997-2100

財団事務局 ☎ 902-0067 沖縄県那覇市安里 388-1 ☎ 098-884-1115

URL <http://www.himeyuri.or.jp/>